



川崎医療福祉大（倉敷市松島）は2025年度、医療福祉学部医療福祉学科に小学校と特別支援学校双方の教員免許を取得できる「初等・特別支援教育コース」を開設する。発達障害をはじめさまざまな課題を抱える子どもたちに適切に対応できる教員を養成する。副学長（教学担当）で同学部長も務める宮川健教授に、開設の狙いやカリキュラムを聞いた。（二羽俊次）

川崎医福大医療福祉学科に新コース開設 宮川健副学長に聞く



特別支援全領域で教員養成

「新コースを開設した理由を教えてください。」
特別支援教育を受けている児童は、10年ほどで約2倍に増えています。文部科学省の調査では、通常学級に在籍しているものの学習や行動面で著しい困難がある小中学生の割合が8・8%と、1クラスに3人程度いることになりました。こうした事情を踏まえ、これまで培った医療福祉の専門性を学校教育の分野に生か

し、全ての子どもたち一人一人に寄り添える教員を養成することは本学の使命だと考えました。
「特別支援学校の全ての領域の教員免許を取得できるそうですね。」
教育職員免許法に定められた特別支援教育領域である視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の五つの分野全てを学ぶことができる私立大は全国で3大学しかなく、関西以西では本学だけ

です。特別支援学校で視覚障害と聴覚障害の教員免許を持っていない教員は3割を超えており、専門性のある教員を輩出することは教育全体の改善にもつながると考えています。
「カリキュラムの特徴を教えてください。」
医療福祉学科が長年教育の柱の一つに据え、全国的にも高く評価されている自閉スペクトラム障害のある人への療育支援プログラム「TEACCH（ティーチ）」を専門的に学ぶことができます。絵や文字カードなど視覚的な手法を用いて理解

やコミュニケーションを促すもので、学生以外の方も対象とした特別講座も開いており、現役の先生方も大勢受講しています。
川崎医科大学と同大学付属病院、旭川荘（岡山市北区祇園）の協力を得て、特別支援教育の授業を受け持つってもらいます。
「主な必修科目、選択科目は。」
必修科目は、一人一人のニーズに即し

障害ある子どもたち支える

た授業を通常学級で行うための教育学や各教科の指導法、教育実習をはじめ、インクルーシブ教育、発達障害のアセスメント法、特別支援教育基礎理論などを設けます。社会福祉の原理と政策、児童を取り巻く社会課題、ソーシャルワークの基礎と専門職などを学ぶ授業も必修とします。
選択科目は、教育にICTを活用する演習、さまざまな特性のある子どもたちが一緒に学ぶための授業のユニバーサルデザイン、自閉スペクトラム症の児童と家族の支援、特別支援の5領域の専門知識や指導方法などを学ぶ授業を行います。
「精神疾患を理由に休職、退職する教員が増加しています。実践力のある人材をどう育成しますか。」
学校現場の実態を知り、教員となった時、自身が描いた理想と現実とのミスマッチを防いでほしいと考えています。1年生から学校支援ボランティアを通じて学校現場への理解を促し、学習支援や生徒指導に関わることも想定しています。3年生は学校体験活動の授業を通し、長期にわたり学校に関わってもらいます。
岡山県内の特別支援学校とは将来的に連携協定を結び、双方が学校運営や授業の内容について助言し合う関係づくりを進めることができればと思います。